



※学-Viva：「Viva」は、「生きる」という動詞から生まれた言葉です。三重の「学び場」が生き生きするイメージで名付けました。

Let's try 授業改善！！

～「授業改善サイクル支援ネット」を活用して授業力 up！～

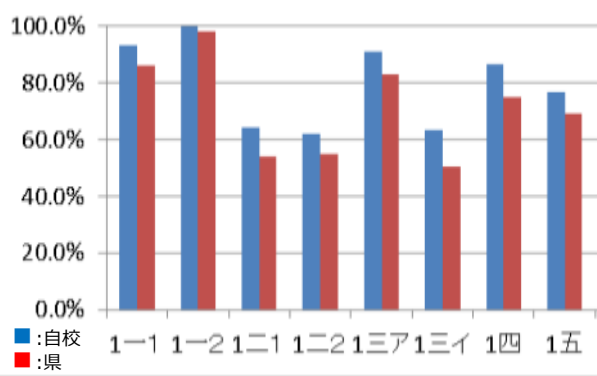
「**授業改善サイクル支援ネット**」は Web 上で学校や市町等教育委員会に提供している、「**分析**」「**授業改善**」のツールです。

授業改善サイクル支援ネット
では何ができるの？

- 子どもたちの学習状況がすぐにわかる『**リアルタイム分析**』！
- みえの子どもたちのつまずきに対応したワークシートがすぐに見つかる『**検索機能**』！

『リアルタイム分析』

全国学力・学習状況調査やみえスタディ・チェックの自校採点結果を入力すると、リアルタイムで分析できます。



設問別平均正答率の比較

★自校と県の設問別の平均正答率や平均無解答率が比較でき、子どもたちの「強み」「弱み」や、自分の授業の課題がわかります。

こんな結果にも注目！

- ◆正答率が高いが無解答率も高い
→ なぜ「無解答率」も高いのか、詳しく分析してみましょう。

誤答の傾向を把握！

★設問別の解答類型や領域別正答率なども示されます。子どもたちの誤答（つまずき）の要因がどこにあるかを把握・分析し、授業改善に活かしましょう。

大問番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
小問番号	1-1	1-2	1-3	1-4	1-5	1-6	1-7	1-8	1-9	1-10	1-11	1-12	1-13	1-14	1-15	1-16	1-17	1-18	1-19	1-20	1-21	1-22	1-23
領域	話す・聞く	書く・読む	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等	言語文化等
解答類型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
問題形式	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択	選択

誤答の把握

ワークシート『検索機能』

ワークシート・問題ダウンロード

検索機能

年度: 平成28年度 学校区分: 小学校 教科: 国語 領域: 話すこと・聞くこと

学年: 1年生 種類: 教員等で作成

「今ほしい!」と思うワークシートがすぐにダウンロード

三重県教育委員会では、県内小中学校の先生方の協力を得て、みえの子どもたちのつまずきを分析し、課題改善につなげる『ワークシート』を作成しています。

(1,654 本掲載)

授業改善サイクル支援ネットにワークシートの「検索機能」を搭載しました。

例えば…「**キーワード**」を入力

「**教科**」「**領域**」「**学年**」などを絞り込む

- ★家庭学習や朝の学習等だけでなく**授業づくりのヒント**として活用できるよ。
- ★子どもたちの実態や指導のポイントに合わせて**編集して使う**こともできるよ。

自校採点結果の分析やワークシートから授業づくりのヒントや気づきが得られます！

授業改善サイクル支援ネットを活用し、子どもたちの「わかった」「できた」につなげましょう!!

学力向上 に向けた



具体的な実践事例



【事例25】英語コミュニケーション力向上事業モデル校 ～ 児童のコミュニケーション能力を育む ～

英語コミュニケーション力向上事業（H26～28）では、中学校との連続性を意識した小学校における英語指導モデルを構築する等、子どもたちの**英語コミュニケーション能力を効果的に育成する取組**を推進しました。

取組 1

フォニックス(Phonics)を活用した指導法の開発

- 英語を**正しく読む力**の育成
- ※フォニックス…英語の発音と綴りの関係を表すルールを学ぶ学習法



取組 2

ALT の配置

- 日常的に英語で**コミュニケーションを図る楽しさ**を体験
- ・ 昼食時の放送で、**英語でインタビュー**
- ・ 休憩時間の児童との交流 等



取組 3

English Time の実施

- **毎週1時間**程度の英語の授業（3年生以上の学年）
- **月1～2回1時間程度**の英語の授業（1、2年生）

English Time について＜45分の授業例＞

Phonics time（15分程度）

- ① フォニックス・アルファベット
- ② 歌やチャンツ
- ③ ゲームなどの活動



Hi, friends! を活用した授業等（30分程度）

※ Joy Joy MIEnglish（県教育委員会作成）やレゴブロック等の活用

成果

◆ フォニックスを活用した指導

- **聞く力・読む力ともに向上**
- アルファベットを見て読もうとする**意欲の向上**

ABC

◆ Joy Joy MIEnglish

- 朝学習・授業の導入等、**繰り返し活用**することによる**英語表現の定着**



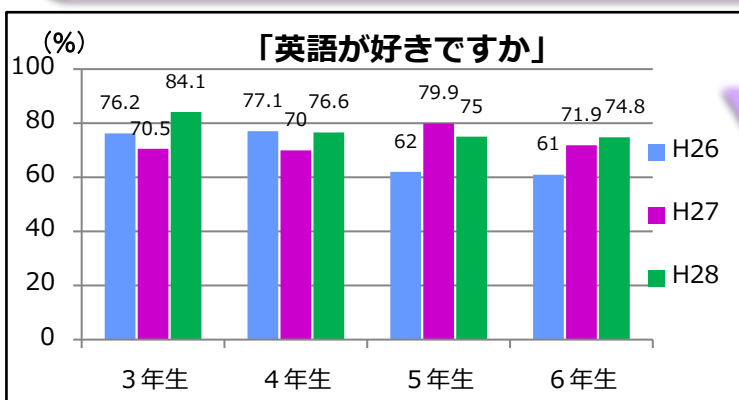
◆ ALT の配置

- 英語でコミュニケーションを図ることへの**自信**につながった。
- ジェスチャー等、**非言語による表現力の向上**

ABC

◆ レゴブロックの活用

- レゴを媒介とした「伝えたい」「話してみよう」という気持ちの高まり



本事業で行った調査結果です。

3年間の経年変化から、初年度に比べて高学年の英語に対する意識の変化が見られます。

「話してみたい」「話してみよう」

「英語でなんて言うんだろう」「伝わった」

このような思いが「英語好き」の児童を育て、**英語でコミュニケーションを図ろうとする意欲**を養います。

ABC

モデル校の報告から

- ◆ 英語コミュニケーション力向上事業の取組は、英語科・外国語活動等をととしてコミュニケーション力を向上させることであり、その点についても他教科へ好影響が波及している。今後も英語科・外国語活動を児童のコミュニケーション能力を育むための有効な手段として、教科横断的に取り組んでいきたい。
- ◆ フォニックス指導、レゴブロックの活用等の取組が効果的であったため、今後もそれらの活動を取り入れ、英語で話すことが楽しいと感じられる English Time にしていきたい。

＊ 校内研修の充実に向けて ＊ 授業研究推進リーダー育成研修

総合教育センターでは、

- 児童生徒の学力向上・定着を図るために、授業研究を中心とした校内研修の企画・運営を推進するリーダーの育成
- 主体的に学び合う組織づくりや研究推進を行うことで、教員一人ひとりの授業力の向上を図り、授業改善につなげる

を目的に、「**授業研究推進リーダー育成研修（全4回）**」を実施しています。



第1回の研修では、大阪教育大学 木原俊行教授を講師にお迎えし、授業研究を中心とした校内研修を推進するための企画・運営のポイントについてご教示いただきました。

木原教授の講義をもとに、「**校内研修推進のポイント**」について紹介します。

大切にしたいキーワードは…

- 焦点化
- 視覚化
- 多様化
- 共有化
- 自己教材化

**研究テーマの設定で
教師の関わり方が変わります！**

- ＊ 新学習指導要領で求められているもの等と自校の強み・特色を加味して研究テーマを設定
- ＊ 継続性や発展性を重視
→ キーポイントを引きつぎ、研究テーマを発展させる。

研究テーマの設定

校内研修活性化のために！

- ＊ 参観の視点と討議の柱を明確に！
→ 討議を深めるために、指導案や事項書に明記する。
- ＊ ワークショップ型事後協議会を実施
→ みんなが発言できる研修にするために、付箋やミニホワイトボード等を活用する。
ex. 「スリー・プラス・ワン（3+1）法」
- ＊ 授業研究の連続・発展を大切に！
→ 協議で明らかになった課題等を書き残し、次の研究会で活用する。
- ＊ 自分化を図る
→ 研修で学んだことをもとに、時間軸を意識して、実践することを具体的に「明日から〇〇します！」と宣言する。



スリー・プラス・ワン（3+1）法については、次のページをご覧ください！

**多様なアイデアを
生むために！**

- ＊ 組織編制を工夫する
→ 教科や学年を越えて、様々なグループで話し合う機会を持つ。

部会等の構成



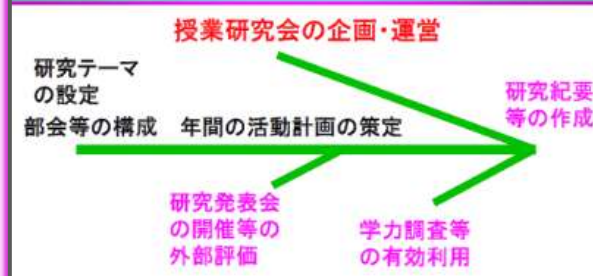
**P D C Aサイクルの
構想・実行を多元的に！**

長期サイクル
&
短期サイクル

- ＊ 1学期の振り返りを夏休みの研修会で！
→ 全員が実践レポートを書き、交流する。
- ＊ 2、3年を見越した中期計画も策定

年間の活動計画の策定

校内研修推進のポイント



＊ 木原教授の講義資料より

**発表する側も参加する側も
学べるような工夫を！**

- ＊ 外部評価を取り入れる
→ 他校の人と積極的に意見交流！
→ 外部講師や助言者の活用！

研究発表会の開催等

授業研究会の企画・運営

**研究を振り返り、
次の研究につなげる機会に！**

- ＊ 取組のまとめを書くことで、整理し、次年度の校内研修の道しるべにしていく。

研究紀要等の作成

やる気を
起こす！

**「エンパワメント」が
キーワード！**

- ＊ 学力調査等の分析・考察
→ 課題だけでなく、自校の「がんばり」を見つけ、子どもも教師も意欲向上！

学力調査等の有効利用



授業力アップに向け、教師同士の学び合いを充実させましょう！

授業実践研修の取組から ～授業力の向上をめざして～

研修推進課が実施している「授業実践研修」では、授業力の向上をめざし、初任、教職6年次、教職経験11年次の教員を、校種別教科別に10名程度、約120班の研修班に分け、研究テーマを設定して、1年間をととした授業研究を進めています。授業改善に向けて、互いに授業を参観し、その授業について短時間で課題を焦点化し、ワークショップ形式で改善方法を検討していきます。経験の異なる少人数のグループで研修を行うことで意見交流が活発になり、多くの気づきを得ることができます。

ワークショップ形式の一つ「スリー・プラス・ワン（3+1）法」の紹介

授業の「**よかった点**」を**3つ**と「**課題**」を**1つ**にしぼります。「**よかった点**」については受講者間で共有し、「**課題**」についてはグループでの協議をととしてその改善方法を考えます。

スリー・プラス・ワン（3+1）法の具体例

● 1 授業を参観し、気づいたことを付箋に記入（付箋1枚に1つの事柄を簡潔に記入）

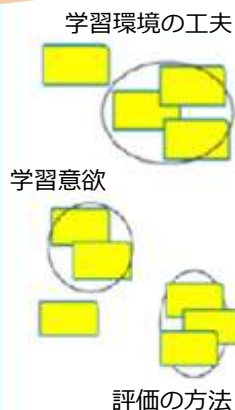
参観の観点

- 「子どもの考えを引き出す発問であったか」
- 「主体的に取り組めるめあての設定であったか」
- 「目的に応じたペア・グループ学習を活用できたか」
- 「個とグループを大切にする授業であったか」等

● 2 授業を分析し、課題解決のための話し合い

- ① 付箋に記入したことを、紹介しながら模造紙に貼る。
- ② 付箋を内容ごとにグループ分けをして、小見出しをつけ、整理する。【構造化】
- ③ 「**よかった点**」を**3つ**、「**課題**」を**1つ**にしぼる。【整理】
- ④ 課題について、具体的な改善方法を考える。
- ⑤ 協議したことを自分化し、実践につなげる。

よかった点 **3つ**



課題 **1つ**



授業のめあてと主発問を関連させることで、子どもたちに考えを深めさせる。

日頃、自分が疑問に感じている点について詳しく話し合うことができた。児童の多様な考えを引き出し、認めた上で、ねらいを達成するためにどう授業を展開するか、その改善方法について語り合えた。今回初めて経験した「スリー・プラス・ワン法」は校内研修などでやってみたい。（11年次教員）

受講者の声



6年次、11年次の方から、的確なアドバイスをいただいて勉強になった。日々の悩みや意見も交流できた。これからも**授業改善に向けて頑張っていきたい**と思った。（初任者）

校内研修でも活用してみてください

市町教育支援・人事監から

メッセージ

教師は授業で勝負する



市町教育支援・人事監 山本 福士

「教師は授業で勝負する」 私が、初任で赴任した学校で教えていただいた言葉です。授業をする機会がなくなった今でも、私の記憶に残っている言葉の一つです。

5月に入り市町教育支援・人事担当の学校訪問が始まりました。ある学校の教室の中で、友だちの発言を聞き「あ～そうか」「わかった」と言いながら笑顔になる子どもたちを見かけました。このような姿を見ると何故か嬉しくなってきます。

子どもたちにとって、学校生活の大半は授業の時間です。子どもたちは、授業の中でたくさんのことを学び成長していきます。学習事項をはじめ、友だちの発言を聞き様々な価値観に出会い、人権的な意識や道徳的な価値も体験的に学んでいきます。また、学習課題に対して、主体的・対話的に探究し、課題を解決することをととして達成感や満足感を味わい、授業の中で自己肯定感を高めていきます。

難しいことではありますが、すべての子どもたちが、達成感や満足感を味わい、次の学習意欲へとつながるそんな授業が各学校で展開できればと思っています。

多忙化が課題となっている学校現場において、これからも授業の「本質」を見失うことなく、子どもたちの姿から学び共に成長していく、その姿勢を大切にして欲しいと思っています。